

地元の財産が国の宝に

玉川上水が国の文化財に指定されました



三鷹市をはじめ都内の9市3区を流れる玉川上水(羽村取水堰〜渋谷区水路敷の約30km)が、8月27日付で、文部科学省から、国の「史跡」として指定されました。

玉川上水は、江戸時代初期の承応2年(1653年)、江戸の町の水不足を解消するために開かれました。羽村取水堰〜四谷大木戸は43km。この間の高低差はわずか92m、約5kmで1kmの落差しかなく、また7カ月という短い工期ともあわせ、人力のみという条件では再現不可能といわれる優れた技術によって作られました。その後、小平監視所から下流は昭和40年に上水道としての使命を終えましたが、都市化が進む中に一筋の緑のオアシスを形作っています。

玉川上水は、今後、東京都が中心となり、文化庁の指導を得ながら保存管理計画を作って、水路、法面、堤などを中心に史跡としての保全を行っていることになっています。

ネットでも事務局のなまごめをしていられる瀬能誠之さん(牟礼在住)は、「玉川上水を持つ魅力はすごい、それだけに思いもよります。このネットは縛りがなく、いつでも、誰でも参加ができる、でも続いている、そんな会にしたいと思っています」とネットについて話してくれました。

玉川上水が流れ続ける限り、このネットも続いていくのかもしれない。玉川上水の開削工事が完成したことを記念し、祝うイベント「竣工式」がちょうど30年前のその日、上水流域の市民などによる団体「玉川上水ネット」により実施されます。

同ネットではこれまでも、設立総会を幕府の決定のあったころの2月16日に、ネット立ち上げの「着工式」は史実より2日遅れの4月6日に実施しました。計画では、来年6月20日には、江戸市内などに水道が通じた「通水式」を予定しています。

このネットは、「みたか市民交流会」のイベントをきっかけに結成されました。会則もなければ役員もない、堅苦しい話ばかりではなく、ただ玉川上水が好きなら参加できる、今ネットでは、羽村市から杉並区、その他地域の連絡を取り合う300人ちかい人数の名簿ができています。

ネットでは事務局のなまごめをしていられる瀬能誠之さん(牟礼在住)は、「玉川上水を持つ魅力はすごい、それだけに思いもよります。このネットは縛りがなく、いつでも、誰でも参加ができる、でも続いている、そんな会にしたいと思っています」とネットについて話してくれました。

激動の時代を生き抜いた44人の人生

「三鷹の女性史」発行

明治31年、昭和5年生まれ44人の女性に実際に会い、その人生を聞き書きした「三鷹の女性史」が出版されました。編集をしたのは、市内にお住まいの大瀧よし子さん、佐々木たか子さん、山下岸子さんでつくる「三鷹市女性史聞き書きの会」。戦争をはきんで三鷹で生まれ育った方、嫁いで来た方、戦後、家族と新生活を始められた方、職業をもった方、農家の方など、収められた声のひとつひとつが、困難な時代に精一杯生き抜いた様子を伝えています。これまで市史の表舞台には出てこ

なかった「普通の女性たち」が、戦後の子ども教育環境やコミュニティづくりなどに力を注ぎ、著実に現在の三鷹をつくってくれたことがうかがえます。

「聞き書き」が始まったきっかけは平成6年、市と「三鷹市女性問題懇談会」が主催で開講した「女性史講座」でした。初めて「聞き書き」を体験した約20人の受講生は、先輩たちの生き様に「感銘を受け」「励まされ」「三鷹にくらぶいろいろな経験をしてくださる女性たちのお話をもっと集めておきたい」という思いにかられたといっています。

講座終了後も有志が活動を続けました。そのうちメンバーも少なくなりましたが、「貴重な記録をもうしても残さなければ」と考えた3人が、本として出版するために新たに「女性史聞き書きの会」を立ち上げ、さらに15人ほどの聞き取りと本づくりの準備を始めました。ちょうどそのころ、地元の出版社が企画するシリーズ「むさしの文庫」刊行準備会と出会い、「聞き書き女性史」が、「まちの未来を語り合うために、過去や現在の姿をできる限り残してい

こうという同文庫の趣旨にぴったりだったことから、この10年にわたる集大成が、同文庫の「創刊準備号」として発行される運びになったのです。同書は定価1千円。お問い合わせはぶんしん出版 60-2211へ。市立図書館各館でも貸し出しています。

興味をもって活動を引継ぐ方が出てくれたら、三鷹にはまだまだたくさんの魅力的な女性がいっぱいいますよ

「聞き書き」が始まったきっかけは平成6年、市と「三鷹市女性問題懇談会」が主催で開講した「女性史講座」でした。初めて「聞き書き」を体験した約20人の受講生は、先輩たちの生き様に「感銘を受け」「励まされ」「三鷹にくらぶいろいろな経験をしてくださる女性たちのお話をもっと集めておきたい」という思いにかられたといっています。

講座終了後も有志が活動を続けました。そのうちメンバーも少なくなりましたが、「貴重な記録をもうしても残さなければ」と考えた3人が、本として出版するために新たに「女性史聞き書きの会」を立ち上げ、さらに15人ほどの聞き取りと本づくりの準備を始めました。ちょうどそのころ、地元の出版社が企画するシリーズ「むさしの文庫」刊行準備会と出会い、「聞き書き女性史」が、「まちの未来を語り合うために、過去や現在の姿をできる限り残してい

こうという同文庫の趣旨にぴったりだったことから、この10年にわたる集大成が、同文庫の「創刊準備号」として発行される運びになったのです。同書は定価1千円。お問い合わせはぶんしん出版 60-2211へ。市立図書館各館でも貸し出しています。

興味をもって活動を引継ぐ方が出てくれたら、三鷹にはまだまだたくさんの魅力的な女性がいっぱいいますよ

興味をもって活動を引継ぐ方が出てくれたら、三鷹にはまだまだたくさんの魅力的な女性がいっぱいいますよ



玉川上水ネット主催、江戸開府400年事業推進協議会、三鷹市ほか後援。11月15日(土)正午〜午後4時30分、三鷹産業プラザ7階会議室で。見て見て写真展「玉川上水見直し(とき)」。ハーマニカによるタンゴ演奏、合唱「ありがとう玉川上水」、玉川上水ネットの活動報告・表彰・意見交換会など。資料代300円。当日、直接会場へ。瀬能宅 47-11208・http://www.parkcity.ne.jp/tama-net/

昭和初期の洋風建築の家(下連雀一丁目)で世界的な彫刻家・佐藤忠良の作品展



井の頭公園の近く、吉祥寺通りを西に入った閑静な住宅街に佇むツツタのからまる素敵な洋風建築のお宅。玄関で靴をぬいであがると、シックな板の間の白い壁や畳の部屋にたてられたキャンバスに、彫刻家・佐藤忠良のデッサン画の額縁が並び、出窓やピアノの上にはブロンズ像が飾られています。

この家は昭和15年ごろ建築の洋風木造住宅で、2年前から高齢者の外出支援活動の場として1階部分を開放してきましたが、このたび初めての美術展が開かれることになりました。

「櫻」1995年 紙、鉛筆 27.6号×24.3号

「櫻」1995年 紙、鉛筆 27.6号×24.3号